

『若手技術者セミナーに参加して』

日本地下水開発㈱ 黒 沢 亘

この度、平成12年1月20～21日に開催された『平成11年度第2回若手技術者セミナー』に参加させていただきました。

初めての参加ということと、2日目にはディスカッションがあるということで多少の不安もあったのですが、若手セミナーのメインは懇親会にある、という話を聞いて気楽な気持ちで望むことができました。

一日目は、講演会で、最初に鉱研工業株式会社金子氏により、『フォームドリリングシステムの概要』についての講演をしていただきました。新しい掘削技術であるフォームドリリング工法は、自分にとっては聞くのも初めてでした。数々の長所がある反面、孔曲がりや湧水量が多い場合には不向きである、といった改良を加えるべき点もあるようですが、調査目的によっては充分有用であることも説明していただきました。

次に、サンコーコンサルタント(株)の武部氏により、『道路調査設計ノウハウ集』についての説明がありました。事前にあまり目を通していないかったのですが、質問一解答形式で書かれた内容は非常に分かりやすく、今後の業務の参考にしたいと感じました。

終了後、参加者全員によって懇親会が行われました。多くの人と話をしようと思って望んだのですが、数人としか話をすることができずに、終わってしまったことが残念でした。しかし、その分、突っ込んだ話をすることができたのは大きな収穫

となりました。

二日目は、ディスカッションで、報告書・土質試験部門に参加させていただきました。私は、入社4年目となりますが調査の現場を担当するのは今年からで、それまでは土質試験を少し担当した程度であり、質問とそれに対する意見について理解できない部分が多くありました。その中で、報告書作成についての意見交換がありました。私も過去の報告書を参考とするだけではなく、自分なりの報告書を作成したいということを感じていました。パネラーの方々からのアドバイスとして、

- ① 図表の多用、図表だけで理解できるようにコメントを入れてみる
- ② 文章はできるだけ箇条書きで、接続語はできる限り省く
- ③ 実測したものと推定したものの区分け
このようなものであったと思いますが、今後の報告書作成の際にはこれらのこと頭に入れて報告書の作成をしたいと思います。

このセミナーに参加させて頂き、普段の業務の中では得られない貴重な場を与えていただきました。同年代で同じ仕事をしている人と話することは刺激にもなり、普段抱えている疑問点を話し合える場があることは大切なことだと思います。そういう意味でも今後参加させてもらえるような機会がありましたら、今回以上に積極的な意見交換ができるように、今後の業務に望みたいと思います。

株菊池技研コンサルタント 田 中 創

私は平成12年1月20日～21にかけて開催された東北地質調査業協会主催の「若手技術者セミナー」に参加させて頂きました。冬季に開催されるセミナーには初参加ということもあり、少々緊張しておりました。

一日目の講演会では、「フォームドリリングシステムの概要」及び「道路調査設計ノウハウ集」について講演を頂きました。「フォームドリリングシステムの概要」の講演では、「フォームドリリングはボーリング用水を得にくい現場や試料採取率の低い不飽和地盤では効果的な場合が多いが、まだ発展途上にあり、引き続き改良を加えていく必要がある」との講演を頂きました。まだ現場でエアドリリング工法を見たことのない私には少しイメージしにくい講演でしたが、常に現場に最適のボーリング工法を考えているということを感じました。また、「道路調査設計ノウハウ集」についての講演では、特に地質調査編について詳細に解説していただき、大変勉強になりました。道路設計をする上での地質調査の仕方や、調査の問題点・留意点について非常に参考になる講演でした。

講演会が終わり、その後開催された懇親会では、研修委員、講師の方々には、技術者としての在り方、これから仕事をする上での心構え等、重要なことを教えて頂きました。また、他社の若手技術者の皆さんと幅広く意見を交換する機会が得られました。日頃他社の技術者と話をする機会が少な

いため、私にとって非常に貴重な時間となりました。私は酒が弱いために一次会でダウンしてしまい、もっと多くの時間話ができれば良かったと後悔しています。

二日目のディスカッションでは、報告書のグループに参加させて頂きました。ディスカッションでは、参加者が日頃疑問に思っていることを、議題として意見を交わしました。ここで、講師や研修委員の方々には参加者同士では解決できない議題を、自分たちの経験談を持ち出しながら丁寧に教えて頂きました。

私は、報告書の書き方について質問をさせて頂きましたが、参加者の皆さんには「日頃どの様なことに気をつけて報告書を書いているか」、「分かりやすい報告書の書き方」について多数の意見を頂きました。また、講師や研修委員の方々には、分かりやすい報告書を書くためには、「図表を使い見やすくすること」、「図表と文章のバランスが大事」ということを教えて頂きました。

今回のセミナーに参加して、日頃の業務では得ることのない貴重な経験をさせて頂きました。若手技術者の疑問に思っていることを解決する場所、また幅広い情報交換や交流の場所として今後もセミナーを継続して開催してもらいたいと思います。私も機会がありましたら是非参加したいと思います。今後、今回のセミナーで得たことを業務に生かしていきたいと思います。

佐藤技術師 浅瀬石 徳 樹

私は、平成12年1月20日から21日の2日間秋保温泉（ホテルニュー水戸屋）で開催された東北地質調査業協会主催の「平成11年度第2回若手技術者セミナー」に参加させて頂きました。セミナー

への参加は初めてということもあり緊張しながら会場へ向かいました。

セミナー初日は、株式会社鉱研の金子豊氏、佐藤薫氏による「ボーリング用泥水」についての講

演が行われました。講演の内容は、フォームドリーリングシステムの長所、短所等をOHPを交えながらわかりやすく説明をして頂きました。泥水工法以外のボーリング工法についての知識が乏しかったので大変勉強になりました。その中で近頃、問題となっている泥水処理について泥水を使用しないので環境にも優しい工法だと思いました。休憩をはさんで、サンコーコンサルタント株式会社の武部幸勲氏による道路調査設計ノハウ集（地質調査編）についての講演が行われました。講演の中で、報告書作成について最近の傾向として文章が長いのでもう少し簡潔にし、図を多くしてより見易い報告書を作成してもらいたいと指摘され大変参考になりました。

二日目は、ボーリングオペレーター、現場代理人、報告書の3部間に分かれてディスカッションが行われ、私は報告書のグループに参加させて頂きました。ディスカッションは、日頃業務で悩んでいる疑問を参加者に質問して答えがまとまらないものは、パネラーの方々が応える形で行われました。今回、参加者が少なかったため報告書のグループは、若手技術者とパネラーと同じ人数でし

た。その為か私を含め他の参加者の皆さんも緊張していた模様で、初めは積極的に意見がでませんでしたが、時間が経つにつれ様々な意見ができるようになりディスカッションはスムーズに進行していました。質問の内容は、日常業務の基礎的な問題からパネラーの方々も首を傾けるような難しいものもありました。しかし内容が理解できないものに関しては、パネラーの方がホワイトボードで図を書いて丁寧に説明して頂いたので大変わかりやすかったです。

今回のセミナーで私は、知識・経験不足のため意見をあまりだすことができませんでしたが、今回学んだことをこれから業務に活かしていきたいと思います。

最後にセミナーに参加して他社の技術者の皆さんやパネラーの方々と様々な情報を交換することができてとても良い経験になりました。このような有意義なセミナーを聞いて下さった東北地質調査業協会の役員の皆様、本当にありがとうございました。次回、機会がありましたらまた参加したいと思っています。

奥山ボーリング㈱ 和賀聰

私は、今回開催された「平成11年度第2回若手技術者セミナー」に参加させて頂きました。その時の感想をここに述べたいと思います。

私は、若手技術者セミナーへの参加は初めてということもあり、少々の緊張感と期待感を持っての参加でした。セミナー第一日目、鉱研工業株式会社の金子豊氏による「ボーリング用泥水」に関しての御講演がありました発砲剤溶液を使ってのボーリングについては聞いたとはありました、実際に作業したことがありませんでしたので私にとっては、非常に興味深い講演でした。

講演終了後、今回のセミナーで私の楽しみの一つでもある懇親会が参加者全員のもとで開催されました。気楽な雰囲気の中で、他社の方々の技術

的なことに関してはもちろんですが、職場環境や日常の生活まで聞くことができ非常に有意義な時間を過ごすことができました。

二日目は、オペレーター、現場管理（ボーリング、原位置試験、管理等）、報告書（報告書作成、土質試験関係等）の三グループに分かれてのディスカッションが行われ、私はオペレーターグループへ参加しました。他社の方々が普段どんなことを悩み考えながら仕事をしているのか話し合えるということで興味を持っての参加でした。オペレーターグループは6人、パネラーの方が3人で行われ、各自の日常業務の悩みや疑問点等を提起し、参加者と経験豊富なパネラーの方々が応えるという形式で行われました。質疑は様々あり、砂礫層、

湧水、湧水箇所のあるボーリング方法などが挙げられ、それに対してパネラーの方々の経験豊富なアドバイスがあり大変参考になりました。透水試験についても水位は必ず翌朝に計測するなどちょっとしたワンポイントアドバイスも聞くことができました。他には、現場での安全管理についての話題が提起され、月一回位定期的に安全パトロールを行っているなど、どの会社もやはり安全に関しては徹底しているようでした。このディスカッションでは、他社の方々の意見、パネラーの方々のアドバイスなどを聞くことができ、新しい発見もたくさんあり有意義でした。私が思ったことは、各

部門ごとに分かれてディスカッションする時間の外に、各部門の何人かを混ぜた時間を設ければ、もっと興味深い質疑ができたのではないかと思いました。

今回このセミナーに参加して、普段得ることのできない貴重な経験をすることができました。セミナーは若手技術者の悩みや疑問を意見やアドバイスで解決し様々な情報を得る場もあり、大変良い経験をしました。私はこの経験を今後の業務に役立てていきたいと思っています。最後に今回このセミナーに参加し、貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。

東邦技術㈱ 泉屋和監

去る平成11年1月20日～21日の2日間、秋保温泉で開催された「平成11年度第2回若手技術者セミナー」に参加させていただきました。この様なセミナーの参加は、今回が初めてでしたので多少緊張しました。

初日は、「フォームドリリングの概要」と「道路調査設計ノウハウ集」の御講演が行われ、興味深く拝聴させていただきました。

エアドリリング工法については、私自身、耳にしたことのある用語でしたが、詳細についてはほとんど知りませんでした。講師の方の資料やOHPを使った御説明は、大変参考となりました。

「道路設計ノウハウ集」のテキストを用いた御講演にあたっては、地形図や地盤図から読みとれる情報・利用の着眼点などをはじめとし、私自身が今後、地質調査を遂行していく中で“Base”となるものと感じられ、大変勉強になりました。

講演終了後には、参加者全員の自己紹介が行われ、次いで懇親会が開催されました。懇親会では、他社のほぼ同年代の技術者や先輩の技術者の方々とふれ合い、気楽な雰囲気の中で技術的なことはもとより、日常生活などいろいろな意見交換ができることは貴重なものとなり、大変有意義な時間を過ごすことができました。

2日目は、「オペレーター」、「現場管理」、「報告書」の3グループに分かれてディスカッショ

ンが行われました。私は「現場管理」グループに参加しましたが、参加者とパネラーの方々を合わせて11名程度の少人数ということで、活発な意見交換がなされたと思います。このディスカッションは、参加者から寄せられた質問に対してパネラーの方々と参加者が意見や返答を述べるという形式で進行していました。この時、現場管理の経験の浅い私が、うまく返答できるのかどうか不安でしたが、思った通り、あやふやな意見しか述べられなかつた気がして残念に思います。しかし、参加者の質問に対するパネラーの方々の実際の経験を含めた御意見・御返答や参加者の方々の御意見には学ぶものがあり、今後の業務に活用して行ければと感じさせるものでした。

今回、このようなセミナーに参加でき、私自身とても良い経験となりました。他社の技術者の方々と意見や情報を交わす場を持つことができ大変有意義な時間を送らせていただきました。私は、現場管理の経験が乏しく、今回のセミナーで学んだことがすぐに実行できるとは思っていませんが、これから少しでも多く役立てていきたいと思います。また、この様な機会を積極的に活用し、技術向上できればと思っております。

最後に本協会の役員や委員の方々に感謝し、御礼申し上げます。

株新東京ジオ・システム 奥山正人

この度、1月20～21日の2日間にわたって開催された「平成11年度 第2回若手セミナー」に参加させていただきました。以前にも当セミナーに参加したことがあったため、特に緊張することもなく楽しく参加することができました。

1日目の講演会では、鉱研工業株式会社による「フォームドリリングシステムの概要」と、サンヨーコンサルタント株式会社の武部幸勲氏による「道路調査設計ノウハウ集」について講演がありました。フォームドリリングシステムの講演は、泥水工法にかわる新技術としてフォームドリリング工法が開発されているということだった。私は実際にボーリングマシーンを操作したことがないので、いろいろと考えさせられる点があった。道路調査設計ノウハウ集の講演では、今後仕事をしていく上で役立つことがたくさんあり、一度ゆっくり本を読みたいと思った。

講演会終了後、参加者全員による自己紹介が行われ、その後、各自割り当てられた部屋へと入り恒例の名刺交換をした。同室の方々と自己紹介や雑談をし、次いで懇親会が開催された。懇親会では、他社の方々や研修委員の方々と色々な中身の濃い意見や話を聞くことができ、大変有意義な時間を過ごすことができた。

2日目は、オペレータ、現場管理、報告書の3グループに分かれてディスカッションが行われ、私は報告書のグループに参加した。私が参加した報告書のグループは、参加者3名と研修委員4名計10名という人数で行われた。このディスカッションでは、私が座長を務めることになり、最初大変気後れしディスカッションをうまく進行することができなかつたが、研修委員の方々や副座長に助

けてもらひながら、徐々にスムーズな進行になり、①物理試験以外でシルトと粘土を見分ける方法、②地下水シュミレーション上で、各帶水層毎に水頭が変化した場合の合計水頭の変化について、③湿潤密度試験結果から飽和土を求める際に、100%を越えた場合の原因について、④標準貫入試験の信頼性と誤差⑤道路橋仕方書V耐震設計編に記載されている「一部の地域において低いN値を示したりあるいは続成作用を喪失した洪積土層」とあるが、低いN値とはどの程度なのか、また、続成作用を喪失した洪積土層とは？、⑥一般に、沖積粘土が過圧密の状態にあるのはなぜか、以上6つのディスカッション参加者から寄せられた質問事項に対して、パネラーの方々とほかの参加者が意見を述べるという形式で行われた。これらについて、有意義な意見交換や助言をうけることができた。特に、質問に対するパネラーの方々の意見には、自分の経験が十分にいかされており、仕事を進めていく上で大変参考になることばかりであった。

前回、当セミナーに参加したときは、まだ入社2年目であったため右も左もわからずに参加していたが、今回のセミナーでは、ある程度経験を積んできたので、自分なりの考え方を持って参加する事ができた。しかし、今回も他社の方々と色々な事柄を話してみて、まだまだ力不足を痛感した。また、このセミナーに参加して、日常業務では得ることのできない貴重な経験をすることができ、この経験を今後の業務にいかし、技術向上を目指してがんばっていきたいと思います。また、機会があったならばセミナーに参加し、色々な方々からたくさんの事柄を学びたいと思います。

